

# 今後の観光を考える上で 考慮したい事柄

東京女子大学 矢ヶ崎 紀子

# 需要が消滅してしまった観光

## ■ 2020年の日本人国内延べ旅行者数

2億9,341万人（前年比50.0%減）

■ 宿泊旅行： 1億6,070万人（前年比48.4%減）

■ 日帰り旅行： 1億3,271万人（前年比51.8%減）

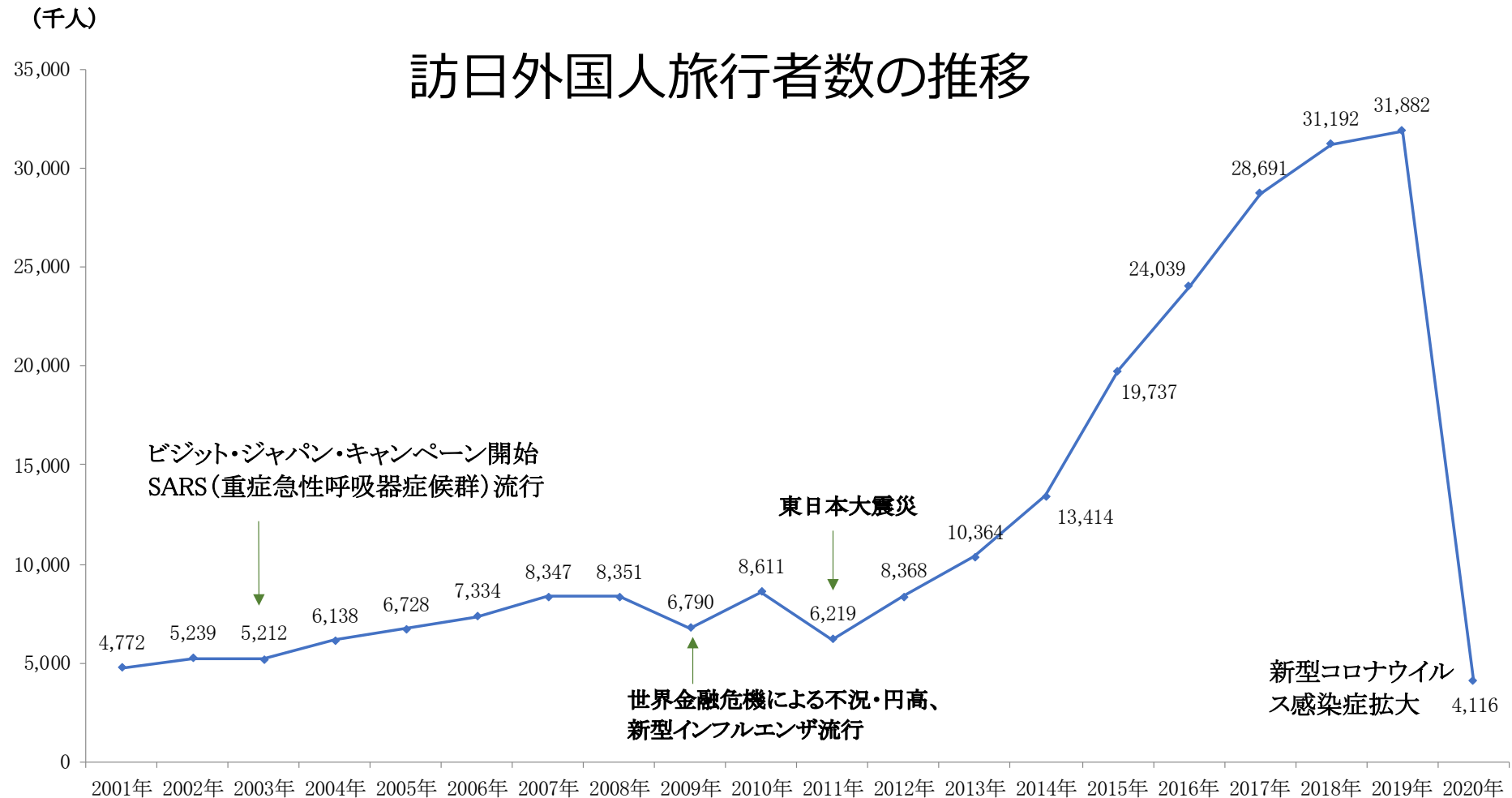
## 旅行消費額の推移

(単位:兆円)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
日本人国内宿泊旅行	14.8	15.0	15.4	13.9	15.8	16.0	16.1	15.8	17.2	7.8
日本人国内日帰り旅行	5.0	4.4	4.8	4.5	4.6	4.9	5.0	4.7	4.8	2.2
日本人海外旅行(国内分)	1.2	1.3	1.2	1.1	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2	0.3
訪日外国人旅行	0.8	1.1	1.4	2.0	3.5	3.7	4.4	4.5	4.8	0.7
合計	21.8	21.8	22.8	21.6	24.8	25.8	26.7	26.1	27.9	11.0

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成。

# 大打撃を受けたインバウンド観光

国際観光客数（国連世界観光機関推計） 2019年14.7億人 → 2020年3.9億人



資料：JNTO発表の訪日外客数より作成。

# コロナ禍中での旅行にみる変化

## マイクロツーリズム

地域ブロック内での旅行が大幅に増加

## 自然、戸外、温泉

自然・景勝地訪問と温泉が増加し、街並み散策や歴史・文化的名所の訪問が減少  
キャンプ場の利用が増大

## 家族で個室でのんびり

小規模旅館の利用が増加、  
リゾートホテル、ビジネスホテル、シティホテルは減少

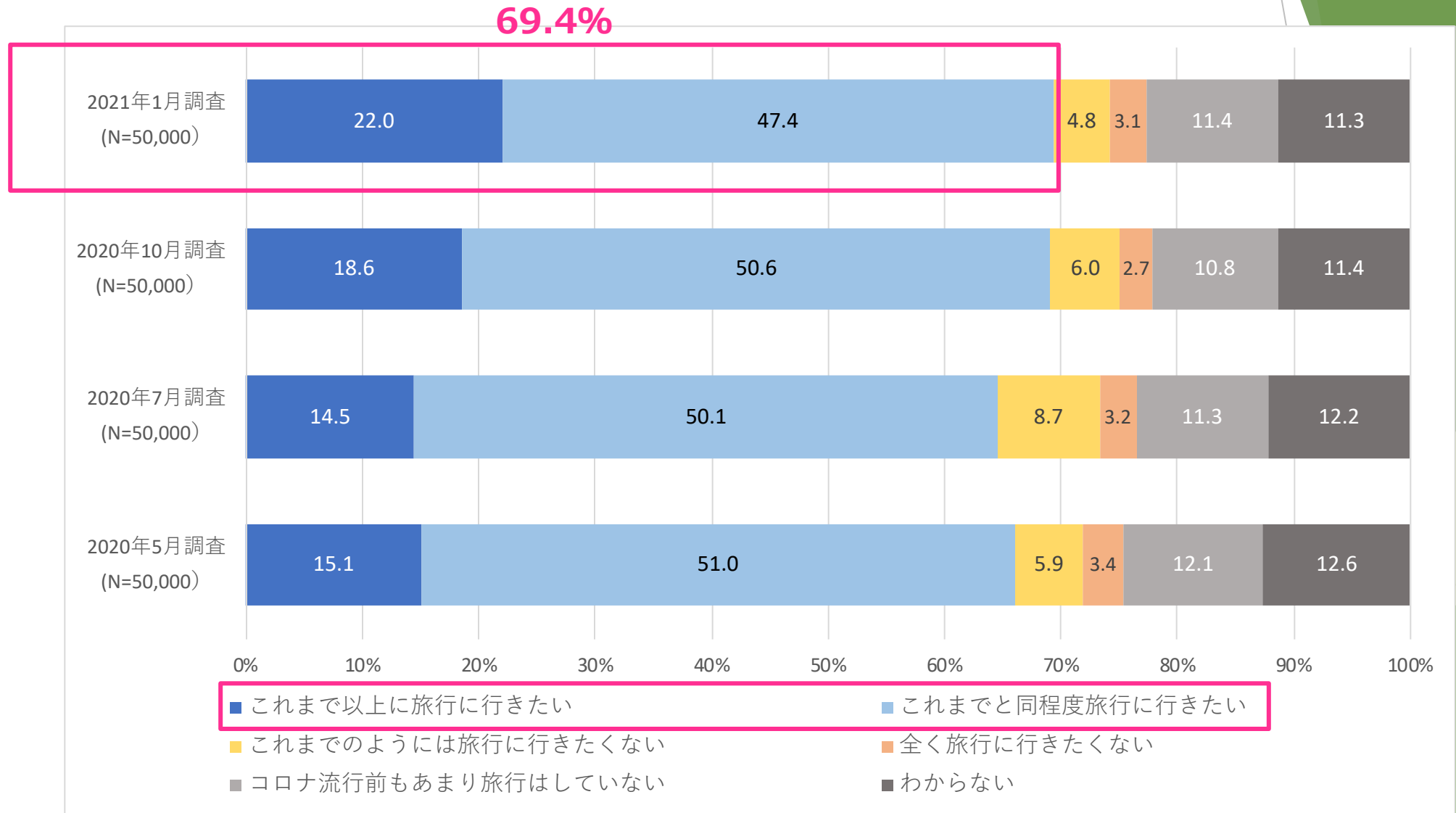
## 自動車で移動

主な交通手段は自家用車が大きく増加。レンタカーも増加



不特定多数との接触を避け、  
近場の自然豊かな地域や温泉地に自家用車で移動し、  
小規模宿泊施設での個室滞在か、キャンプを楽しむ、  
少人数での家族旅行が主流

# コロナ後に国内旅行に行きたいか？



資料：公益財団法人日本交通公社「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その10）」（2021年4月7日）より抜粋。

# コロナ後に日本に行きたいか？

アジア・欧米豪の海外旅行経験者のコロナ収束後の海外旅行意向

(新型コロナの流行が収束し、平常状態に戻ったとき、また海外旅行をしたいか)

		(%)	思う	どちらかといえば 思う	どちらかといえば 思わない	思わない	まだわからない
全体	アジア居住者 (n=4,127)	66	24	4	3	4	
	欧米豪居住者 (n=2,021)	54	27	6	5	9	

次に海外旅行したい国・地域 (MA:最大5つまで)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
アジア居住者 (n=3,839)	日本 (67%)	韓国 (42%)	台湾 (30%)	オーストラリア (26%) タイ (26%)	
欧米豪居住者 (n=1,853)	日本 (36%) 米国 (36%)		オーストラリア (29%)	英国 (24%)	イタリア (23%)

# 観光需要の回復

1. 近場&固定客 → 中距離 → 遠距離

2. 必要な5つの要素

① 旅行意欲

② 旅行者が重要視する要素を事業者や地域が提供できるか

→ 少人数、個人旅行、分散、戸外・自然、  
同行者同士でゆったり

→ 信頼できる感染予防対策が講じられていること

③ 移動可能であるか

④ 旅行関係事業者や地域に受け入れる意識と体制があるか

⑤ 旅行需要回復のスタートとなる「きっかけ」があるか

# 留意点

- 2022年に国内、2023～24年にインバウンドの完全回復？  
ワクチン接種の状況次第では、回復開始は早期になる可能性
- 旅行者が重要視する要素に、SDGsが加わる  
→ 旅行消費単価の高い層、SDGsが一般用語の若者層
- 回復するとなったら、その速度は速い  
回復初期の旅行者への対応に失敗は許されない？  
→ 回復プロセスをマネジメントする！
- 観光地域づくり法人（DMO）等と組んで、地域全体での誘客
- 今回の感染症の経験を記録し伝える